

はじめに

平成18年12月、新しい教育基本法が公布・施行され、これにより昭和22年から半世紀続いた戦後教育は新たな一步を踏み出しました。本年1月には、学習指導要領改訂の最終答申も出され、学校教育は社会の変化とともに大きく変化しようとしています。

教育を取り巻く状況には大きな動きが起きていますが、児童生徒に「生きる力」をはぐくむことが重要であることに変わりはありません。実現のための具体的な指導方法や手だてを研究・開発し、学校や地域に還元していくことが大切であると考えます。

こうした中、当センター長期研修員は、教員としての資質の向上と見識の涵養に努め、併せて学校及び地域の教育を推進する実践力を養うことを目的に、1年間研修を積んでまいりました。

各研修員は、教育改革の流れの中から所属校が抱える課題や長期研修員自身が教育活動実践上の課題と考えることを基に、研究テーマを設定しました。この研究報告書から、長期研修員の教育改革への意気込みと学校及び地域の教育を推進するための実践力の向上を読み取っていただけるものと思います。教育改革を推進する上で「考える力」「基本的生活習慣」「数学的に考える力」「問題解決の過程の充実」「キャリア教育」「情報の共有と活用」「情報活用能力の評価」「グループ・アプローチ」「共生・共育」「学校図書館の利活用」等の言葉は、本書を読み進める中でのキーワードとなっています。

これらの研究を学校教育現場の諸課題の解決や教育実践の参考として御活用いただけたら幸いです。また、内容について率直な御意見を賜りたいと存じます。

最後に、長期研修員の研修に際しまして、御支援・御協力を賜りました学校及び関係教育機関の方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

平成20年3月

静岡県総合教育センター
所長 山本 健二